

10's 20's Yモード

「麺処はるにれ」の代表、小原祐二さん。  
「はるにれ」の英名は「ジャパニーズ・  
エルム」。塾の名前にちなんで決めた



「はるにれ」の経営母体は、地域の学習塾「エルムアカデミー」(エルム)です。子どもたちの全面的な成長と発達を指し、1984年に設立。ただ知識を詰め込むのではなく、学ぶが意味をともに考え、学びがいを感じられる授業や取り組みを実践してきました。不登校や発達障害の子どもたちも受け入れ、卒業生は千人を超えます。

役にたてる

2007年12月、東京都品川区の戸越公園駅前にある商店街に「はるにれ」はオープンしました。店一押しは塩ラーメンは、国産小麦100%の自家製極細めん。国産の豚、鶏、昆布などでとった澄んだスープは、あっさりなのにうま味がぎゅっしり。お客の6割が女性や家族連れという店内は、明るく落ち着いた雰囲気です。

小松幸枝記者

学習塾がつくったラーメン店



手早く塩ラーメンをつくる田代雄也さん

怒られるのは  
期待されてる  
裏返しなんだ

す。  
エルムの元塾講師で「はるにれ」の代表、小原祐二さん(39)は、ラーメン店を開店した経過をこう語ります。

「卒業生の中には、社会に出てうまく適応できず精神的に追い詰められ自殺した子、『派遣切り』で首を切られた子、やりたいことがみつからない子などがたくさんいます。そういう若者が、働くことを通じて『自分も役に立っている』『働くことっておもしろい』と思えるように、地元で働く場をつくりたかった」

中退。その後、アルバイトをしながら、定時制高校に通い、大学に進学。6年間通いましたが、学びたいことが見つからず、中退しました。進路に悩んでいたとき、大学在学中からアルバイトをしていた「はるにれ」で働かないかと声を掛けられます。

「初めてお客さんに出したとき、『おいしい』といわれ、すごくうれしかった」  
小原さんは語ります。「彼は何かをやりとげた経験がほとんどありません。しかし、大変な思いをしなくて達成感を得られない。みんな大変な思いをして働いて、そのお金で食べにくる。だから、お客さんにいいかげんなものを出してはいけません。特にむずかしい

接客から生き方まで学んだ

ない。きつくて、もうひと踏ん張りする。仕事に向かう姿勢を何度も教えました」

ハツとした

あるとき、田代さんは小原さんから「人から注意を受けたときの受け止め方がネガティブ」と指摘され、ハツとしました。

「怒ったり、注意もするけれど、それは乗り越えられると思うからいいんだ。どんなことがあっても期待している」。小原さんの言葉が心に残りました。

田代さんはいいます。

「いままで人から怒られると、『おれはなんてダメなんだ』と自分で自分を追い込んでいた。でも、自分のすべてを否定する必要はないし、いまここでがんばることが、逃げ回っていた自分とのたたかいなのだと思う。ネギ一本切るのも以前より早くなった。日々の変化を励みにして、がんばりたい」

手を携えて

「はるにれ」は秋ごろ、2号店開店を計画。小原さんたちの夢は広がります。

店一押しは塩ラーメン。ラーメン情報誌などにも取り上げられた

